

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
大阪医療福祉専門学校	平成13年9月20日	橋本 勝信	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-14 (電話) 06-6393-2288																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人 大阪滋慶学園	昭和62年3月31日	理事長 浮舟 邦彦	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6150-1301																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
教育・社会福祉	専門課程	診療情報管理士学科 (診療情報管理士コース)	平成25年1月29日文科科学省 告示第15号	-																					
学科の目的	医療機関における診療記録及び情報を適切に管理するための知識・技術を習得することにより、医療の安全管理、質の向上、経営管理に寄与する人材を養成する。																								
認定年月日	平成28年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	3年 昼間							2730時間	2400時間	150時間	180時間	0時間	0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
120人	19人	0人	3人	12人	15人																				
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 平常点、定期試験を併せた総合点																					
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月6日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月6日 ■学年末:3月12日～3月31日		卒業・進級条件	出席率:全体出席の90%以上 当該学年履修科目:科目成績60%以上、全取得 卒業時:国家試験対策科目履修としての卒業試験の合格																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期面談、電話連絡、保護者説明会		課外活動	■課外活動の種類 運動部、文化部、学術部、ボランティア、スポーツフェス ■サークル活動: 有																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 0		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																					
	■就職指導内容 就職年度初めに、就職希望調査を行い、それに基づき毎週行っている就職指導、その他にて全員指導、個別指導と状況に応じて指導している。 ■卒業生数: 6人 ■就職希望者数: 5人 ■就職者数: 5人 ■就職率: 83.3% ■卒業者に占める就職者の割合: 83.3% ■その他 ・進学者数: 0人 ・結婚のため就職希望せず: 1名			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療情報管理士試験</td> <td>②</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>診療報酬請求事務能力認定試験</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 特記事項なし				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	診療情報管理士試験	②	4	3	診療報酬請求事務能力認定試験	③	11	5	0	0	0	0	0	0
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
診療情報管理士試験	②	4	3																						
診療報酬請求事務能力認定試験	③	11	5																						
0	0	0	0																						
0	0	0	0																						
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 4% 平成30年4月1日時点において、在学者25名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者24名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学科変更(転校によるもの)		■中退防止・中退者支援のための取組 学外学習行事取り入れ、異学年間交流会、学生面談、学習補習、保護者会、保護者参観日																						
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 大阪滋慶育英会:受験生本人または本人の兄弟姉妹が本校又は、大阪滋慶学園姉妹校に在籍または卒業している場合、奨学金10万円が支給される。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構(受審年月 平成30年3月31日)																								
当該学科のホームページURL	http://www/ocmw.ac.jp																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文科科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種類区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(教育・社会福祉専門課程 診療情報管理士学科・診療情報管理士コース) 令和元年度

教育課程の編成において、緊密な連携の下、必要となる知識、技術を反映するために取組んでいる。企業との連携について、教育と医療の両現場の乖離を無くすべく、在学時、卒後と連携した教育体制を敷き、意見交換を定期的に行い、また医療現場より講師を招聘し質の高い教育を提供できる様に努めている。更に卒業生による特別講義を実施し、学校の授業と現場との関連性を教義いただき、業界との結束を強めている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会の委員長は学校長とする。業界の求める人材像に近づけるために必要なカリキュラム内容を審議することが目的であり、まずは学科ごとに念入りに委員会で議論する。他職種連携が必須の時代背景を鑑み、その意見を他学科の教育課程編成委員で共有し他職種からの意見も反映した教育課程の策定を行うこととする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 勝信	大阪医療福祉専門学校(学校長)	平成31年4月1日～令和2年3月31日(2年)	
勝元 伸二	日本診療情報管理士会(評議員) 岸和田徳洲会病院	平成31年4月1日～令和2年3月31日(2年)	①
橋本 昌浩	元音羽病院	平成31年4月1日～令和2年3月31日(2年)	③
末福 美恵子	いとうまもる診療所	平成31年4月1日～令和2年3月31日(2年)	③
酒井 早	大阪南医療センター	平成31年4月1日～令和2年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)

年4回(6月、6月、12月、1月)

(開催日時(実績))

- 第1回 平成30年6月4日 16:00～17:00
- 第2回 平成30年6月12日 19:00～20:00
- 第3回 平成30年12月18日 19:00～21:00
- 第4回 平成31年1月23日 18:00～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

診療情報分野に関しては変化が早い領域でもあり、委員から頂いた意見を精査し迅速に取り入れ対応を行っている。具体例としては診療情報管理領域の中で、医療経営に参画する比重が増えており、次年度生からの養成カリキュラムにも導入されたマーケティングを昨年度より取り入れて教授している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科は卒業後、即戦力として働ける人材育成を要請することを目的としている。

資格修得後も現場で必要とされる知識を適時教授していくためにも、現場実習時に実習担当者から現在の学生に何が必要かをヒアリングしその結果を授業の立案・計画に盛り込み、その結果を再度実習指導者にフィードバックし意見をいただいている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 主に実習を中心に連携している。見学実習、臨床実習と2部構成としており、1年次に見学実習、3年次に臨床実習を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
医療マネジメント論Ⅰ	学科特性とした多岐に卒業進路が開かれており、その中で進路選択の一つになる様に様々な取り組みを行っており、見学実習も一つである。	岸和田徳洲会病院 寝屋川生野病院他
ボランティア活動論	ボランティアに参加することによりコミュニケーション力を身につける。また多くの施設を体験することにより今後の医療機関とのつながりについて学ぶ。	自立支援センター夢中 アスワーク 社会福祉法人嘉誠会他
実習事前指導	診療情報管理士実習に向けての事前学習であり、見学や講師を招き現場での学び方を教えていただく。	社会医療法人弘道会 岸和田徳洲会病院他
実習事後指導	診療情報管理士実習終了後の事後学習であり、実習で学んだことをグループワークで検討していく。そこにバイザーとして現場の職員と意見交換を行う。	社会医療法人弘道会 岸和田徳洲会病院他
診療情報管理士実習	診療情報管理士受験要件の一つであり、規定に則って実習病院と期間を設定し、実習事前、事後指導も合わせて行っている。	りんくう総合医療センター・市立岸和田市民病院・社会医療法人 生長会府中病院 医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院・宇治徳洲会病院・神戸徳洲会病院・他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 学内研修、学園内での研修に加え、業界研修などに積極的に参加し、日々研鑽を積んでいる。また地域の勉強会を本校にて開催し、学生も参加し易い環境を整備し、教員、学生共に成長できる様に取組んでいる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「平成30年度 統計スキルアップ勉強会」(連携企業等: 日本診療情報管理士会)
 期間: 平成30年11月4日(日) 対象: 診療情報管理士
 内容: 「統計スキル」

研修名「平成30年度 コーディングスキルアップ勉強会」(連携企業等: 日本診療情報管理士会)
 期間: 平成30年11月4日(日) 対象: 診療情報管理士
 内容: 「コーディングスキル」

研修名「日本医療秘書学会第16回学術大会」(連携企業等: 日本診療情報管理士会)
 期間: 平成31年2月24日(日) 対象: 診療情報管理士
 内容: 「他職種協働医療の時代における医療秘書の氏名と役割」

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第1回 教員研修」(連携企業等:大阪滋慶学園)
期間:平成30年5月1日(火) 対象:教員
内容:「専門学校の教員として求められる能力～急速に変化している社会において～」

研修名「第2回 教員研修」(連携企業等:大阪滋慶学園)
期間:平成30年8月24日(金) 対象:教員
内容:「変わっていく学生と変わらない学生指導力～急速に変化している社会において～」

研修名「第3回 教員研修」(連携企業等:大阪滋慶学園)
期間:平成30年3月24日(火) 対象:教員
内容:「軸がブレない学生指導力の向上のために～急速に変化していく社会・行政・業界に対応する～」

研修名「FDSD研修」(連携企業等:NTT東日本、チエル株式会社)
期間:平成30年8月24日(金) 対象:教職員
内容:「5年後の授業について考えてみよう!学生の成長とICTを活用の必要性」

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第45回日本診療情報管理士学会学術大会」(連携企業等:日本診療情報管理士協会)
期間:平成31年9月19～20日(木～土) 対象:診療情報管理士他
内容:講演と化粧訓練士養成講座

研修名「日本医療秘書学会第17回学術大会」(連携企業等:日本医療秘書学会主催)
期間:令和2年2月26日(日) 対象:診療情報管理士・医療秘書他
内容:『20XX年の医療秘書像を探求する』東京医療保健大学 医療保健学部 医療情報学科 准教授 齋藤 僚馬
『20XX年の医療秘書像に向けて どうICT技術を使うか どう道を拓くか』国立保健医療科学院 統括研究官 木村 映善

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員研修」(連携企業等:大阪滋慶学園)
期間:令和1年5月2日(木) 対象:教員
内容:「退学者減少に向けた、今年度の行動目標の設定と計画立案」

研修名「教員研修」(連携企業等:大阪滋慶学園)
期間:令和1年8月23日(金) 対象:教員
内容:「退学者減少に向けた、現状の振り返りと目標・計画の修正」

研修名「教員研修」(連携企業等:大阪滋慶学園)
期間:令和2年25月日(木) 対象:教員
内容:「退学者減少に向けた、成果の報告」

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育・運営活動等の状況について、各校が自ら行う点検及び評価(自己点検・評価)を実施し、教育・運営水準の一層の向上を図り、学校運営の活性化に寄与する。また、評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の理解促進や連携協力により学校運営の改善を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織の意思決定機能、人事や賃金の制度、意思決定システムの確立、情報システム効率
(3)教育活動	業界ニーズの把握、ディプロマポリシーを実現するカリキュラムポリシー、科目配置、キャリア教育、授業評価、教育確保、成績評価基準、資格取得の指導體制
(4)学修成果	就職率、資格取得率、退学率、卒業生・在校生の活躍評価
(5)学生支援	就職支援体制、学生相談体制、学生への経済的支援体制、学生の健康管理体制、課外活動支援体制、学生寮・生活環境支援、保護者連携、卒業生支援
(6)教育環境	施設・設備の整備、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災体制
(7)学生の受入れ募集	アドミッションポリシーの適正性、教育成果のリレーション、入学選考基準の適正性、学納金の適正性
(8)財務	中長期的な財務基盤、予算・収支計画の妥当性、会計監査の適正、財務情報公開の体制
(9)法令等の遵守	法令・設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護対策、自己点検・自己評価の実施と改善、自己点検・自己評価の公開
(10)社会貢献・地域貢献	教育資源や施設を活用した貢献、学生ボランティア活動支援
(11)国際交流	グローバル人材の育成に向けた国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価による学校運営や教育水準に関する指摘、問題点については、学内に設置された運営会議および学科長会議により問題点の共有と改善策を検討し、改善に努めている。また、その情報については、学校ホームページ上に公開している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
三原 修	大阪府理学療法士会・日本理学療法士協会・大阪府理学療法士連盟・りんくう永山病院事務部長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	職能団体
勝元 伸二	日本診療情報管理士会 医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院 診療情報管理室 課長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	職能団体
湖崎 淳	大阪府眼科医会 湖崎眼科院長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	企業
中山 哲也	大阪府立茨木西高等学校学校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	高等学校
段上 靖治	医療法人芙蓉会 南草津病院 大阪医療福祉専門学校同窓会会長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	卒業生
島袋 美紀	保護者代表	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	保護者
田中 幸恵	法務省淀川地区保護司会保護司 近隣関係者代表	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	近隣関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:<https://www.ocmw.ac.jp/>
公表時期:令和1年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が保有する情報の公開及び開示に関し必要な事項を定め、当該情報を積極的に公開することにより、教育活動や取り組みについて、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や業界全体からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の沿革と教育目標
(2)各学科等の教育	教育システムと教育スケジュール、学外実習マニュアル、学年暦、教科目標、教科課程
(3)教職員	専任教員数報告、平成29・30年度学術活動実績報告書
(4)キャリア教育・実践的職業教育	管理者セミナー一覧表、新入職者教育プログラム、大阪医療福祉同窓会
(5)様々な教育活動・教育環境	教育システム、設備紹介、特別講義・各種セミナー・就職指導、ボランティア活動
(6)学生の生活支援	学生マンションについて、滋慶トータルサポートセンター
(7)学生納付金・修学支援	奨学金制度・教育ローン、学費一覧
(8)学校の財務	大阪滋慶学園のホームページ
(9)学校評価	自己点検自己評価報告書、平成30年度重点目標・達成計画、学校関係者評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、第三者評価、リハビリテーション教育評価
(10)国際連携の状況	海外研修、海外研修実績、中国合併学科
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:<https://www.ocmw.ac.jp/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 診療情報管理士学科・診療情報管理士コース)			令和元年度												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報処理演習	コンピュータの操作、活用を目指す。またMOS検定合格を目指し対策を行い合格水準に到達できるようになる。	1前 2後	120	8	○	○		○			○	
○			文章表現	レポート作成に必要な書く技術の基礎訓練を行いレポート作成ができるようになる。	1通	60	4	○	○		○			○	
○			コミュニケーション技法	医療人として必要なコミュニケーション力について演習を通じて学び、コミュニケーション力を高めることができる。	1通	60	4	○	○		○			○	
○			スポーツ科学論	スポーツを行うことにより各々の健康の大切さを知り、健康の必要性について説明できるようになる。	2通	60	4	○	○		○	○			
○			英会話	医療従事者としての必要な英会話、英語コミュニケーションを学び日常会話ができるようになる。	1後 2後	90	6	○	○		○				○
○			卒業研究	いままで学んだ医療関連知識を使用しながら卒業研究を行い発表できるようになる。	2後 3後	150	10	○	○		○			○	○
○			ボランティア活動論	様々なボランティア活動を通じて、社会貢献の現場について理解できるようになる。	1前 3前	150	10					○			○
○			問題解決力(ワーク)	様々な事例をワークを経て問題解決へのプロセスを学び、実行できるようになる。	2前	30	2	○	○		○			○	
○			国際医療福祉論	米国の医療制度、保険制度を学び、医療機関や施設訪問を通じてそのシステムや方法について理解できるようになる。	3前	30	2	○	○		○			○	
○			医療安全管理論	医療安全学について体系的に学び、予防策を説明できるようになる。	1後	30	2	○			○				○
○			医療マネジメント論Ⅰ	医療機関の経営状況調査について学び、BSシートについて説明できるようになる。	2後	30	2	○			○				○

○		医学医療用語	医療、医学の現場で使われる必要不可欠な医学用語を具体的に説明できるようになる。	1 前	30	2	○			○	○		
○		臨床医学総論 (外傷学、先天異常等含む)	疾病の原因、組織、病理について学び、検査所見、診療方針について説明できるようになる。	1 後	30	2	○			○		○	
○		臨床医学各論Ⅰ (感染症及び寄生虫症)	医学及び寄生虫の主たる疾患の症状、病因、検査などについて学び、診断、治療の基礎的な知識について説明できるようになる。	1 後	30	2	○			○		○	
○		臨床医学各論Ⅱ (新生物)	新生物に関する疾患の症状、病因、検査について学び、診断、治療の基礎知識について説明できるようになる。	1 後	30	2	○			○		○	
○		臨床医学各論Ⅲ (血液・代謝・内分泌)	血液、代謝、内分泌の障害による症状、病因、検査について学び、診断、治療の基礎的な知識について説明できるようになる。	2 前	30	2	○			○		○	
○		臨床医学各論Ⅳ (脳神経・感覚器等)	神経系の疾患の症状、病因、検査について学び、診断、治療の基礎的な知識について説明できるようになる。	2 前	30	2	○			○		○	
○		臨床医学各論Ⅵ (消化器・泌尿器系)	消化器・泌尿器系の疾患の症状や病因、検査について学び、診断、治療の基礎的な知識について説明できるようになる。	2 前	30	2	○			○		○	
○		臨床医学各論Ⅴ (呼吸・循環器系)	循環器系の疾患の症状、病因、検査について学び、診断、治療の基礎的な知識について説明できるようになる。	2 後	30	2	○			○		○	
○		臨床医学各論Ⅶ (周産期系)	女性の生理を正しく理解し、妊娠及び分娩経過について学習する。妊娠分娩に関する知識を得て検査法、治療法について説明できるようになる。	2 後	30	2	○			○		○	
○		臨床医学各論Ⅷ (筋骨格系)	筋骨格系の疾患の症状や病因、検査について学び、診断、治療の基礎的な知識について説明できるようになる。	2 後	30	2	○			○		○	
○		診療情報管理士 試験対策(基礎)	試験合格に向けて、集中的に演習し、合格水準まで到達できるようになる。	3 後	60	4	○			○		○	
○		医療管理総論	医学、経済学、社会学等の各分野の学術的アプローチとしての病院、医学管理学一般について説明できるようになる。	1 前	30	2	○			○		○	
○		保健医療情報学	医療情報の意義、必要性、現状を説明できるようになる。	1 前	30	2	○			○		○	
○		診療情報管理論Ⅰ	診療情報管理士の業務についての概略を説明できるようになる。	1 後	30	2	○			○		○	

○		診療情報管理論Ⅱ	診療情報管理士の業務についての専門知識を理解し、説明できるようになる。	2前	30	2	○			○									
○		診療情報管理論Ⅲ	DPC、医師事務作業補助、がん登録の実務について理解し説明できるようになる。	2後	30	2	○			○									
○		医療管理各論Ⅰ	病院管理の知識を中心に診療情報管理士としての知識を理解し説明できるようになる。	1前	30	2	○			○									
○		医療管理各論Ⅱ	医療の評価とは何かを考え、診療情報管理士としての知識を理解できるようになる。	2前	30	2	○			○									
○		医療管理各論Ⅲ	医療安全と医療の質管理に関して説明できるようになる。	2後	30	2	○			○									
○		医療統計Ⅰ	医療分野での統計資料をもとに必要な体系的知識と数理的に理解できるようになる。	2前	30	2	○			○									
○		医療統計Ⅱ	病院統計と疾病統計の取り方について理解できるようになる。	2後	30	2	○			○									
○		診療情報管理士試験対策(専門)	試験合格に向けて、集中的に演習し、合格水準まで到達できるようになる。	3通	120	8	○			○									
○		実習事前指導	実習前の諸注意、記録の書き方、挨拶などを行い、円滑に実習できるようになる。	3前	30	2	○			○									
○		実習事後指導	実習で学んできたことをまとめ、後輩に実習の基礎知識を伝えることができるようになる。	3後	30	2	○			○									
○		診療情報管理士現場実習	現場にて診療情報管理士の技術等を理解できるようになる。	3前	180	4				○									
○		国際統計分類Ⅰ	疾病分類法の概論を中心に使用目的、その意義について理解できるようになる。	1後	30	2	○	○		○									
○		国際統計分類Ⅱ	臨床症例に基づき疾患のコーディングについて理解できるようになる。	2前	30	2	○	○		○									
○		短大併修科目対策	大学、短大併修必修科目のレポート、試験に合格できるようになる。(大学、短大併修コース選択者)	1前 2後	120	8	○	○		○	○								
合計				53科目	2730時間(174単位)														

卒業要件及び履修方法

授業期間等

全ての単位を履修していること。出席率は、出席すべき日数の90%以上であること。これらの条件に加え、卒業判定委員会にて卒業を許可されること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。